

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八幡高等学校

自己評価		評価(総合)
学校運営計画(4月)		
学校運営方針	「知恵と工夫でコロナ禍を乗り越え、伝統を継承しながらもしなやかに創造的な教育活動を展開し、新学科設置に挑戦するとともに、ICTを活用した新たな学びの在り方を模索して、学校の活性化と生徒の能力の伸張を図る」	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の中で、オンライン授業の実施等によって学習に遅れが生じないように対応した。また、様々な学校行事が一昨年度に続き例年と異なる形態での実施となったが、行事の意義や目的を再確認しながら実施内容や実施時期の変更等、工夫を行った。困難に直面しても様々な工夫を行い、乗り越えられることを生徒が実感できたことで、将来を生き抜く力の向上にも繋がった。また、他教科との連携を図って教科科目横断型授業や理数科課題研究、普通科夢現プロジェクト等の探究活動を積極的かつ組織的に行ったことが、生徒の多角的思考力や旺盛な行動力の育成に繋がったと考えられる。教科科目横断型授業、探究活動を本校の魅力の一つとして、全教職員の共通認識のもと、新学科設置後、より一層充実したものなるように推進したい。本年度の重点目標の中に「新学科設置への挑戦」を掲げた。新型コロナウイルス感染症対策を適切に行い、命、安全、健康を第一に考えながら、全職員で知恵を絞り、伝統を継承しながらも工夫を凝らして限られた環境の中で最大限の教育効果を上げつつ、魅力的な新学科設置に向けて準備を進め、生徒・保護者から信頼されるような創造的な教育活動を展開したい。</p>	感染症に打ち克つ教育活動の展開	・命・安全・健康を第一に考え、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、その脅威に打ち克つ教育活動を展開する。
	教師の自己研鑽による授業力向上と、高い志と知的好奇心に支えられた主体的な学びの実現による学科改革への挑戦	・自己研鑽に努めるとともに、他教科との連携を図って、主体的・対話的で深い学び(AL)として教科科目横断型授業を推進するとともに、新たな学校像の検討と特色化を図り、学科改革に挑戦する。 ・ICTを活用した新たな学びの在り方を模索して指導力の向上に努め、それらの成果を新学科構想に生かす。 ・教員が語る教科の魅力から、意欲と向上心が掻き立てられざるをえない学習指導を目指す。 ・基礎基本の確実な定着の上に深い学びが実現できるよう、各教科が指導の方向性を共有した上で、3年間を見通して組織的に教科教育を実践する。
	主体性を最大限に引き出し、学校を「家族」にする生徒指導、及び心身ともに健康で自他の人権を尊重できる心豊かな生徒の育成	・学校教育全体をとおして、生徒の主体性を最大限に引き出し、生徒が「志」に向かって自立的・意欲的に人生を生きられる能力を身につけさせる。 ・人に対する思いやりと、クラス・学年・学校を「家族」にする意志を持たせるとともに、感謝の気持ちを抱き、愛校心のある生徒を育てる。 ・知恵と工夫で、生徒主体の生徒会活動、学校行事、部活動を一層推進し、主体性・自立性の涵養と相互に高め合う集団づくりに努める。 ・適切なヒドゥン・カリキュラムのもと、全教育活動において自他の人権尊重の精神を養う人権・同和教育を実践する。
	高い志を持つ生徒の育成と学力保障、進路指導の充実	・魅力ある教育活動が旺盛な知的好奇心や行動力の育成に繋がり、学問の面白さに気づかされて学習することで、結果的に生徒が高い志を持ち、難関大学をはじめとする進学実績の向上に発展していくような学校の在り方を目指す。 ・生徒が希望する大学に合格できるよう、学力保障のための授業・放課後課外等を実施する。 ・進路指導の方法や指導内容の諸課題についての方向性、進路情報等を全体で共有し、一貫した進路指導システムの構築を図る。
	理数科と普通科が切磋琢磨する、他校にはない特色ある教育活動の推進	・SSHの成果を活用した理数科における教育を基軸として、課題研究等の探究的な姿勢を「夢現プロジェクト」として新学科にも応用するとともに、理数科と新学科とが切磋琢磨する教育活動を展開するとともに、新学科での特色ある教育活動を検討する。 ・国際的視野を育成するため、海外語学文化研修等を充実させる。
広報活動の充実と特色ある教育活動の積極的な発信	・ホームページを中核とする多様なメディアの活用や学校説明会等によって、本校の特色ある教育活動や実績を発信する。 ・PTA・誠鏡会(同窓会)・学校後援会と連携して、教育効果を高める。 ・中学校や各種説明会、塾(予備校)等に直接足を運んで、本校の教育活動を積極的にアピールする。	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導の充実と特色ある学校づくりの推進	教師の自己研鑽と生徒の主体的な学びの実現	教科科目横断型授業やICT機器を取り入れた授業の促進 Chromebookや一人一台端末に対応できる授業の模索 評価規準を活用した体系的な教科教育の実践		
	新学科設立の準備	魅力的な教育課程や学校行事の再編 学校設定教科「知の統合(仮称)」の体系化 総合的な探究の時間のさらなる充実		
自己指導能力育成を目指した生徒指導	魅力ある学校づくりと規範意識の高揚・マナーの向上	学校行事への積極的な取組と部活動の充実 学校教育活動全般における規範意識及びマナーの向上 PTAの協力によるマナーの向上の推進		
	心身の健康づくりと安全な教育環境の整備	教育相談、スクールカウンセリングの充実と保護者等との連携強化 合理的配慮を要する生徒の把握及び職員間での支援体制の推進 委員会活動を通じての感染症予防、健康管理、美化意識の醸成		
志の育成と進路指導	高い志の育成と難関大学合格者数の増大	第1志望をあきらめさせない進路指導の徹底と高い学力の育成 共通テスト対策及び個別試験対策の充実 総合型選抜・学校推薦型選抜合格に向けた指導方法の共有化		
	「考え抜く力」の養成と社会に有為な人材育成	夢現プロジェクトを通じた、生徒の進路意識の高揚 進路希望別のコース編成による土曜セミナー・放課後課外の計画・実施 互いの個性を尊重し、切磋琢磨できる環境の創出		
教員の資質・能力の向上	新たな学びの在り方の体系化	新学科の特質を発揮するための指導力の向上 校内研修会の計画的実施 研究授業、授業アンケートを活かした授業改善の推進		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

評価項目以外のものに関する意見
